

熊本城

～復興に向けて～

平成30年 春夏号



仮設屋根撤去中の大天守



西大手門と満開の桜

石材調査

石垣石材についての基礎資料を作成するために、石質や寸法、加工方法などを詳細に記録していきます。崩落時にできた破断や亀裂等の有無も観察します。



崩落した石材の保管



1石ずつ移動して調査を実施



写真による記録



石材や矢穴のサイズを計測

復興見学ルート・説明パネル

地震後、熊本城周辺の24カ所には案内板を設置し、順番に巡ると熊本城全体が見学できるようにしました。案内板は多言語での説明文や、補足情報の動画が読み取れるQRコードを掲示しています。



復興見学ルート案内板



案内板 QR コード



二の丸の見学通路



復興見学ルート図

『復興熊本城 vol.1被害状況編』を刊行しました。

平成28年(2016)の熊本地震によって甚大な被害を受けた熊本城の記録集を、20年かけて定期的に発行します。第1集では地震による建物や石垣の被害状況、平成29年度上半期までの復旧工事の様子、調査研究の成果などを収録しました。熊本県内の書店などで販売しています。



『熊本城復旧基本計画』を策定しました。

熊本城復旧の基本的な計画や具体的に取り組むべき施策、20年にわたる復旧期間の中での段階的な公開の時期などを示した『熊本城復旧基本計画』を平成30年3月に策定しました。熊本城総合事務所のホームページや熊本市内の図書館などで内容を閲覧できます。



- 二の丸・天守閣ルート (歩行のみ)
- 周遊ルート (歩行のみ)
- シャトルバス運行ルート
- 立ち入り規制区域 (平成30年4月)
- 見学案内板

市役所 14階からは、熊本城全体をご覧いただけます。

熊本市/熊本城総合事務所 電話：096-352-5900
熊本城調査研究センター 電話：096-355-2327



H29.4.14 天守閣工事 西より



H29.10.27 天守閣工事 西より



H30.1.26 天守閣工事 東より



H30.2.20 天守閣工事 西より



小天守内側石垣崩落石材番付作業



小天守内側石垣崩落石材回収作業



小天守石垣解体作業（裏込め掘削）



小天守石垣解体前写真記録作業

天守閣復旧整備工事では、地震でダメージを受けた建物の復旧整備と、崩落した石垣の解体修理を進めています。

天守閣復旧整備工事



H29.5.18 崩落石材を無人重機で回収 南より



H29.10.27 下からの構台を建設後、上の構台を撤去 南より



屋根瓦を一枚ずつ回収



建物部材回収作業

飯田丸五階櫓の復旧工事は、崩落石材を無人重機で回収し、櫓本体を支える鉄骨構台を組み上げました。櫓本体の部材回収後、石垣の解体修理を進めていきます。

飯田丸五階櫓石垣復旧工事

発掘調査の経過

長堀

長堀復旧に先行して、発掘調査を実施しました。調査では江戸期や明治に修復された石垣のグリ石層や、堀の支柱石の基礎構造を確認しました。



測量風景



折れた支柱石



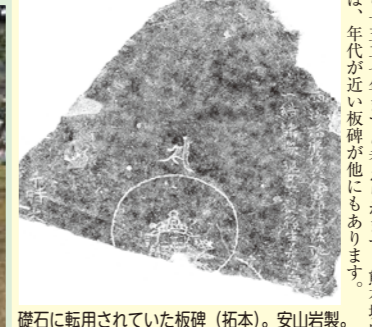
明治期修復の石垣グリ石層

仮設見学通路

復旧の様子を公開するために、仮設見学通路を整備します。江戸時代の遺構状況を確認するために、発掘調査を実施しました。調査の結果、観音像が彫られた石材を、建物礎石に転用しているものが発見されました。



発掘風景



礎石に転用されていた板碑（拓本）。安山岩製。サイズはタテ46cm×ヨコ52cm。

銘文
西海路肥後州飽田郡阿弥陀寺奉造
一結語業現世安穩後生善処
西海道（現在の九州）の肥後国飽田郡阿弥陀寺の人々が、現世安穩と来世の極楽往生を願って建てた板碑と考えられます。その板碑が約半分に割られて礎石に転用されています。今回の調査では、板碑の上部が発見されました。調査の中心には梵字（古代インドの仏教文字）で観音菩薩を意味する「サハ、その下には月輪の中に観音菩薩を細い線で彫り、さらに右下にも月輪の一部を彫っていることから、脇侍が彫られていた可能性もあります。左側には「于時大」の紀年銘が見えます。「大」が使われる中世の年号は「天永」のみであるため、この板碑の製作年代は「一五二」年から「一五二七年」までと考えられます。熊本城内には、年代に近い板碑が他にもあります。

熊本地震における熊本城の被災状況

熊本城全体の石垣：973面、約79,000㎡
特別史跡熊本城跡の土地面積：約512,000㎡

平成28年4月16日 1時25分「本震 M7.3」

※前震での被害を含む

種類	被害数量	内容
重要文化財建造物	13棟	倒壊2棟、一部倒壊3棟。他は屋根・壁破損など
復元建造物	20棟	倒壊5棟。他は下部石垣崩壊、屋根・壁破損など
石垣	崩落・膨らみ・緩み 517面 (うち崩落50箇所、229面)	約23,600㎡ (全体の29.9%) (うち崩落約8,200㎡ (全体の10.3%))
地盤	陥没・地割れ70箇所	約12,345㎡
便益施設・管理施設	26棟	屋根・壁破損など

建物の部材回収



釘など分別



部材対照作業



仮設倉庫に格納

(東十八間櫓建築部材の回収)